

< 参考資料 >

1. 庄内平野の専業農家
年間労働時間と時給（2003年）
2. 「コミュニケーション」から
「No.37 米価について」
「No.35 農業生活（夏期）について」
「No.56 農業生活（冬期）について」
3. 稲作マニュアル
4. 農業生産現場の写真
5. 有限会社アトップにおける葱栽培作業手順
6. ヒアリング質問項目

1. 庄内平野の専業農家

年間労働時間と時給 (2003年)

	(月一作物)					(月一人)			計	%
	米 (米と花:事務含む)	花	畑	共	企	H (A氏)	J (妻)	Y (祖父+子供、パート除く)		
1	33	64	0	0	66	136	27	0	163	4
2	42	31	0	0	16	67	22	0	89	2
3	99	305	0	2	5	245	157	9	411	11
4	283	34	2	10	4	216	102	15	333	9
5	213	109	44	0	2	222	132	14	368	10
6	71	150	14	6	9	183	67	0	250	7
7	110	279	0	0	22	266	145	0	411	11
8	108	252	3	0	9	257	115	0	372	10
9	163	123	6	4	5	197	104	0	301	8
10	158	120	28	0	12	208	110	0	318	8
11	79	142	27	8	10	165	101	0	266	7
12	66	383	0	5	17	284	187	0	471	13
(人一作物)	H	958	1,241	45	29	173			2,446	65
	J	434	746	79	6	4			1,269	34
	Y	33	5	0	0	0			38	1
	計	1,425	1,992	124	35	177	2,446	1,269	38	3,753
	%	38	53	3	1	5	65	34	1	

[()内は2002年の数値、%は2002年に対する2003年の割合]

- 総労働時間 3,753時間 (4,142時間, 91%)
- 分野別割合 花:米:etc = 53:38:9 (59:34:7)
- 作業ピーク月 12月、7月、3月 > 400時間
(12月、7月、4月、5月)
- 個人別割合 H:J:Y = 65:34:1 (64:34:2)
- 時給 米(花以外) 3,001,254円 ÷ 1,761(時間) = 1,704^円/時 (2,014^円/時)
花(売上-経費) (6,753,685円-4,307,776円) ÷ 1,992(時間)
= 1,228^円/時 (1,152^円/時)
米+花 5,447,163円 ÷ 3,753(時間) = 1,451^円/時 (1,508^円/時)
- 生産性(米) 1,425(時間) ÷ 28.4(水稻作付け面積) = 50.2^{時間}/10a (49.7^円/時)
<事務含む>

(データ:土門秀樹作成による資料)

2. 「コミュニケーション」から



コミュニケーション

No. 37
平成 12 年 12 月

先日、私達の住む藤岡地区恒例の部落対抗駅伝大会がありました。
わさだの
小学生から70名ほどの男女でチームを作り、地区内12区間(400m~2km)を走りました。我が
の子供達はかけこが得意なこともあり、女子マラソン金メダリストの高橋尚子チームに
来て、親子4人で走る事になりました。

農業をしているから、体力に自信はありました。ところが直前に、子供達と練習
してみると、下の娘(小5)についていくことが精一杯のお父さん、お母さんははるか
彼方というあたりまでショックを受けました。

本番、お父さんは少しでも敵チームと差をつけて息子(中2)〈孝真〉にたすき
を渡したい親心から、視張り過ぎて、脚がガクガク、大会後しばらく、筋肉痛と
頭痛に悩まされました。

農業を続ける上で一番大事なのは健康と体力。この冬は雪が横巻くと、町の
体育館の中を子供達と一緒に走りたいと思います。

〈うふと気になる農業の話題〉「米価について」

「専門家の米」って高いですよ。右先の持売の米に比べたら2倍もしたり
して、でも5年前まで、いわゆる銘柄米(コシヒカリ、ササニシキなど)は、これくらいの
価格で売られていたのです。

生産者米価は17年前(昭和58年)にピークに達した後、ゆるやかな下降線
をたどりました。7年前(平成5年)の大冷害で一時的に高騰したものの、5年前
(平成7年)の食糧法施行で流通緩和と一部輸入が行われると、下落に拍
打かかりました。そして今年、全国的凶作。持越在庫量280万石(150万石程度)

備蓄米として必要とされているが)、米価は高値。おまけに米平は10/5haの減反をしなければならぬ(全水田の32.5%)。豊作は今や農業にとりかえりあてられない言葉になってしまった。

私は15年前から稲作を手放して以来、米価右肩下りの時代を生き延びました。米価が右肩上がり(米の上にあぐら)時代の農業者と考え方が違つたのはそのせいかもしれません。

おもしろい表を見つけました。江戸時代からの生産者米価の移り変わりです。この表の価格は標準的なもの(政府米等)です。当地の米は銘柄米として自主流通し、ピーク時の価格は1俵22,000円以上になりました。ところが今では15,000円です。

米価が下がる中、農村には、様々な波紋が広がっています。

まず、経済的圧迫です。米代金は10月に返済金としてまとめて支払わねばなりません。月賦には農協の口座から、基礎整備の借金や共済(保険)掛金などが引き落とされます。ところがこの秋、そう引き落とすに際しては、借金を返さず、田を手放す農業者が目立っています。田を手放す以外にも買手がないから見つからないのが実情なのではないかと。

また、リストラも急速に進んでいます。農業を辞めていくのは、我々同世代の若者や中堅の人です。私の集落では、10人くらいいた若い担い手の大半が転職して、今は3人。一方、年金をもらっている年輩者の人達は、生き残りで続いています。担い手の高齢化は深刻な問題です。

さらに荒れ田が目立ってきました。15年前は庄内平野の均一な美田の広がり
胸ときめかせましたが、今は変わりました。耕作放棄地はヨシが茂り野原化し、
このままでは復旧も容易ではありませぬ。また稲や植えた水田を十分な管理がされず
ヒエが大量発生しています。

回を覚えてください。米づくりの収益性について大まかに説明しよう。

5年前まで、玄米1俵(60kg) 20000円。そのうち経費の半分、所得の半分でした。

1俵あたりの労働時間は4時間、そこで、時間給 2500円(所得10000円÷4時間)と

得ていました。サラリーマン並といえるでしょう(年収600万円+2000時間労働)。ヒエ3割

現在は1俵15000円。経費は変わりません。それは、日本の農地生産と気象条件の割差

から、大規模化、省力化がなかなか進まないことによります。時間給は1250円(所得5000

4時間)と以前の半分になりました。このまま専業農業者は窮地です。一方、生きがい

農業者は平然と稲作を続けられています。

農家は、サラリーマンだた私にとって、実際やってみて初めてわかることばかりとて
不思議な世界です。

最後に茶碗一杯のワカメ、米の値段に120くらゐの(御存知ですか?)「工門界の米」
は32円、特売の米は16円くらいです。

<お知らせ>

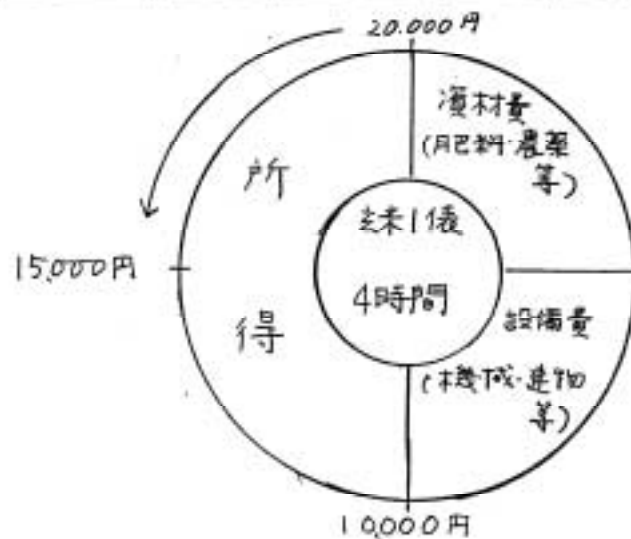
今回は紙面の関係で「お成町、お成地域の米作りの移り変わり」はお休みさせ
いただきます。

1月分のお米の発送は、12月26日頃になります。(お米のサービスです)

米 価 の 推 移

(60kg当たり)

年次	米 価	年次	米 価	年次	米 価	年次	米 価
	円十銭厘		円十銭厘		円十銭厘		円十銭厘
天 保 2	297	7	1.872	6	8.480	35	4,194.32
3	277	8	2.052	7	14.600	36	4,425.48
4	248	9	1.176	8	20.000	37	4,825.42
5	202	10	2.544	9	10.000	38	5,226.92
6	320	11	1.920	10	14.200	39	5,935.11
7	460	12	2.640	11	10.200	40	6,530.40
8	279	13	4.080	12	12.400	41	7,193.72
9	339	14	3.280	13	15.200	42	7,813.63
10	364	15	2.080	14	15.920	43	8,202.12
11	278	16	1.248	昭和 1	13.972	44	8,202.00
12	308	17	1.840	2	13.540	45	8,239.60
13	248	18	1.728	3	10.800	46	8,381.60
14	249	19	1.552	4	10.000	47	8,889.60
弘 化 1	392	20	1.508	5	8.000	48	10,208.40
2	495	21	1.446	6	6.520	49	14,236.00
3	348	22	4.000	7	10.868	50	15,840.80
4	381	23	2.040	8	8.396	51	16,576.40
嘉 永 1	353	24	2.640	9	11.448	52	17,163.20
2	469	25	2.280	10	12.780	53	17,191.20
3	666	26	2.640	11	11.700	54	17,412.40
4	459	27	2.640	12	12.700	55	17,762.40
5	462	28	2.920	13	13.232	56	17,516.00
6	468	29	4.000	14	15.728	57	18,005.00
安 政 1	396	30	5.720	15	16.948	58	18,790.00
2	283	31	3.280	16	17.608	59	18,668.00
3	321	32	4.000	17	17.560	60	18,516.00
4	497	33	3.760	18	18.640	61	18,505.00
5	547	34	3.800	19	18.680	62	17,557.00
6	668	35	4.960	20	1,204.28	63	16,743.00
万 延 1	794	36	4.360	21	1,384.00	平成 元	16,743.00
文 久 1	650	37	4.320	22	1,643.10	2	16,500.00
2	556	38	5.280	23	2,080.50	3	16,392.00
3	577	39	5.280	24	2,048.50	4	16,392.00
元 治 1	776	40	5.720	25	2,504.82	5	16,392.00
慶 応 1	1,422	41	4.920	26	3,040.56	6	16,392.00
2	2,942	42	4.080	27	3,548.70	7	16,392.00
3	1,456	43	5.360	28	4,341.68	8	16,392.00
明 治 1	1,692	44	6.160	29	4,054.24	9	16,217.00
2	3,148	大 正 1	8.320	30	4,180.11	10	15,805.00
3	1,868	2	7.280	31	4,047.66		
4	1,116	3	4.320	32	4,164.09		
5	800	4	5.120	33	4,116.90		
6	1,200	5	6.000	34	4,201.02		





No.56

平成16年2月組

コミニケーション

皆さんの御覧にご利用ください

お正月明けの最終日、1月4日の夜、NHKスタジオシティに大規模な新年の鳥海山
成登場した。鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の
音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。



鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

鳥海山、水田虎に巻らす、上り巻名で、雪解け水の音で、清流の自然音、春夏秋冬の取柄の向角間に北の大門各とした。

4. 稲作マニュアル

(具体的な数値は x 印で全て伏せてある)

2004.2.7

改訂

2004年 稲作マニュアル (種苗・低投入型)

1. 作付概要
2. 全体作業の流れ
3. 施肥設計
4. 田植までの作業の流れ
5. 作業手順
 - 育苗
 - 本田準備
 - 田植
 - 収穫・調整・貯蔵
6. 収穫・乾燥調査
7. 収量実績
8. メモ

1. 作付概要

(1) 作付け面積

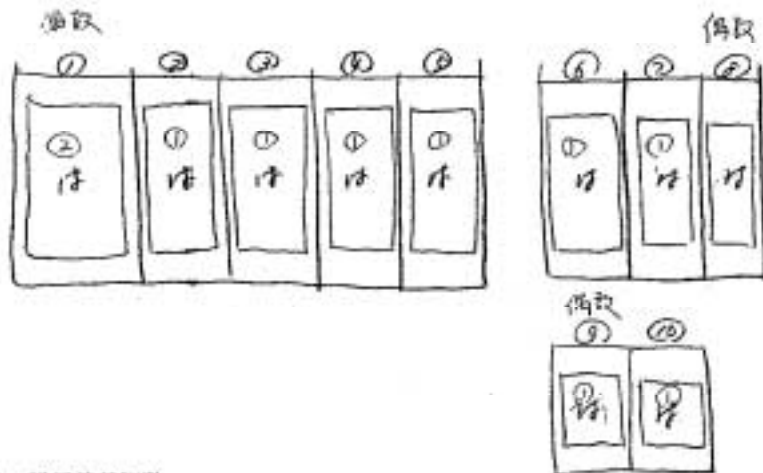
食用米 XXXXX m²

転作 XXXX

XXXXX

(2) 作付構成

品種	作付面積	箱数(xx箱/反)	種子 (xxx g/箱)
はえぬき	xx 反	xxx 枚	xxx kg (予備 xx kg)



○：耕起前基肥数

偶：耕起、田植のスタートは手前から

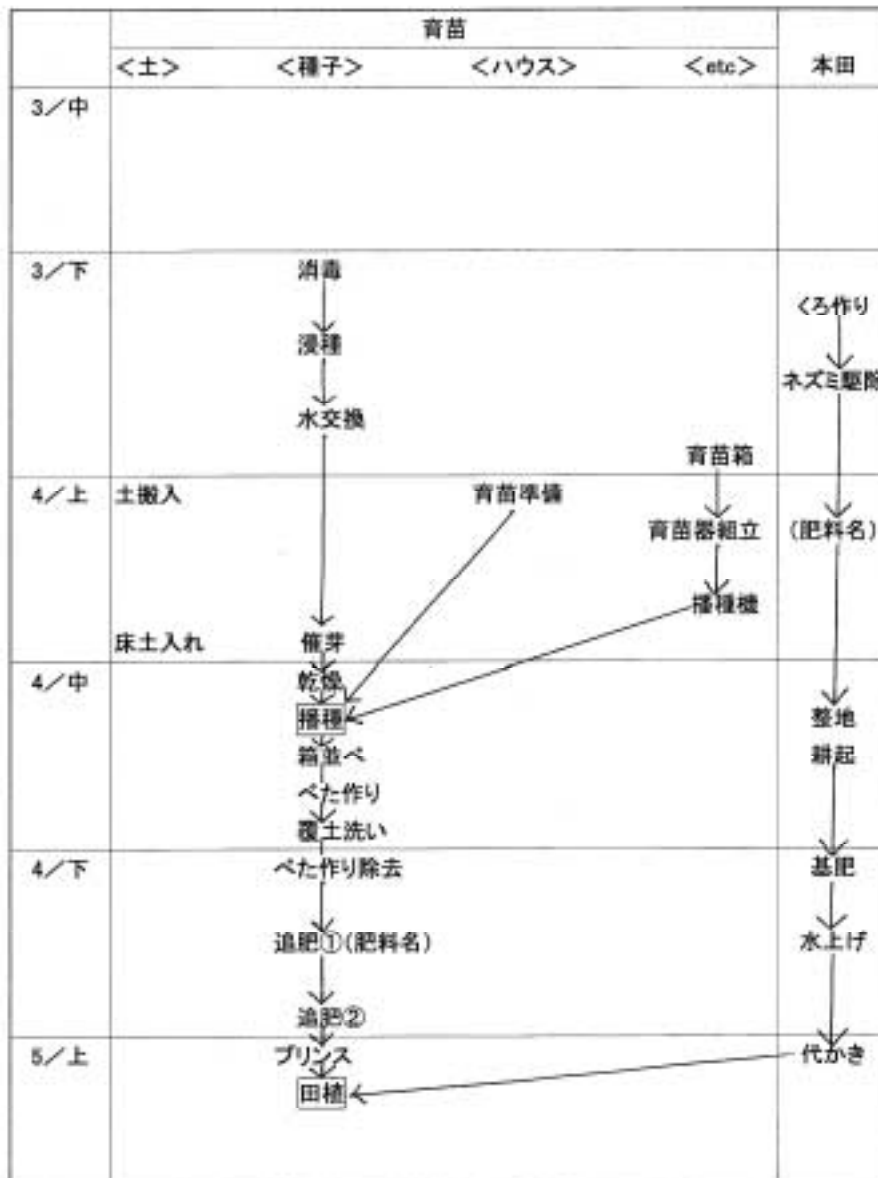
2. 全体作業の流れ

時期	節目	xx	施肥	水管理	防除等
4月	播種 整地 耕起 代かき		(肥料名) 基肥	水上げ	
5月	田植	xx xx	分げつ肥	畦畔水り 田均調査 中水	(虫)農薬 (草)農薬 (草)農薬 草刈
6月	有効茎確保	xx xx		深水 落水 作溝① コンバインにつぶされる計画的作溝を	草刈
7月		xx xx xx xx	穂肥診断 穂肥	中干し 作溝② 節水	草刈 (病虫)農薬
8月	出穂			花水 間断	(病虫)農薬
9月	収穫			畦畔水り除去 落水	草刈
				排水溝作り	

3. 施肥設計

施肥法	基肥		分げつ肥	穂肥			計
肥料名	XXXXXX	XXXX	XXXX	XXXX			
組織	X-XX-X	XX-XX-XX	XX-XX-XX	XX-X-XX			
量 (kg/20a)	XX	XX	XX				
成分 (kg/10a)	N(窒素)	X	XX	XX			XX
	P(燐酸)	XX	XX	XX			XX
	K(カリ)	X	XX	XX			XX
施肥法	全層 (耕起前)	全層 (耕起後)	表層	表層			

4. 田植までの作業の流れ



5. 作業手順

• 育苗

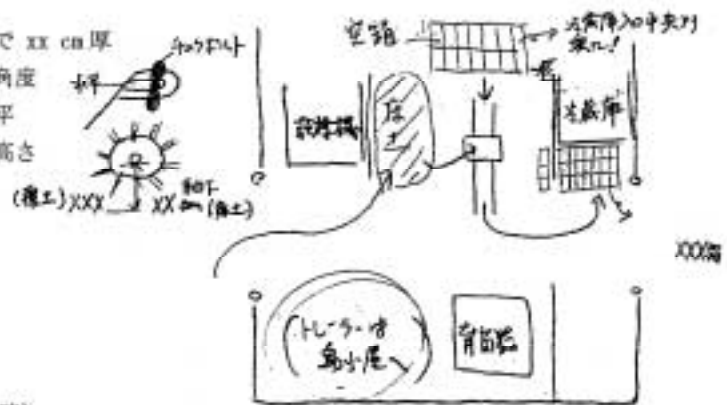
(1) 土

- ① 土搬入 (4/x) (製品名) $xx \text{ g/箱} \times xxx = xxx \text{ kg}$
 (製品名) $x \text{ g/箱} \times xxx = xx \text{ kg}$

床土 (製品名) $xx \text{ m}^2$
 ph xx チェック!

② 床土入れ

- 覆土材で $xx \text{ cm}$ 厚
 反射材角度 xx°
 穴が水平
 ブラシ高さ



③ 覆土

(2) 種子

① 塩水選 (省略)

比重選 (xxx)

卵が横に浮く

硫安 $xx \text{ kg/水 } xx \text{ l} \times xx \text{ l}$

- 十分に水洗

② 消毒

スポルタック乳 $xxxx$ 倍 xx 時間

(種粉 $xx \text{ kg}$ - 水 $xxx \text{ l}$ - スポルタック $xxx \text{ cc}$)

- 種粉の容積以上の処理液
- 浸種始めに袋でゆする
- 水交換の x 回目は x 日以降

③ 浸種、水交換

$x \text{ }^\circ\text{C} \times xx \text{ 日} = xxx \text{ }^\circ\text{C}$

「アメ色」

平床水槽 x 日毎交換

水面下 $x \text{ cm}$ 以下、 $xx \text{ }^\circ\text{C}$ 以下

④ 催芽 (温度×水分×酸素)

風呂とぶづけ → 育苗器 「ハト胸」 (x~x mm)
(xx °C)

4/x 4/x 4/x
 xx °C xx °C OFF

xx:xx → xx:xx → xx:xx → 乾燥
 上下換え 芽切れ x 割

⑤ 乾燥

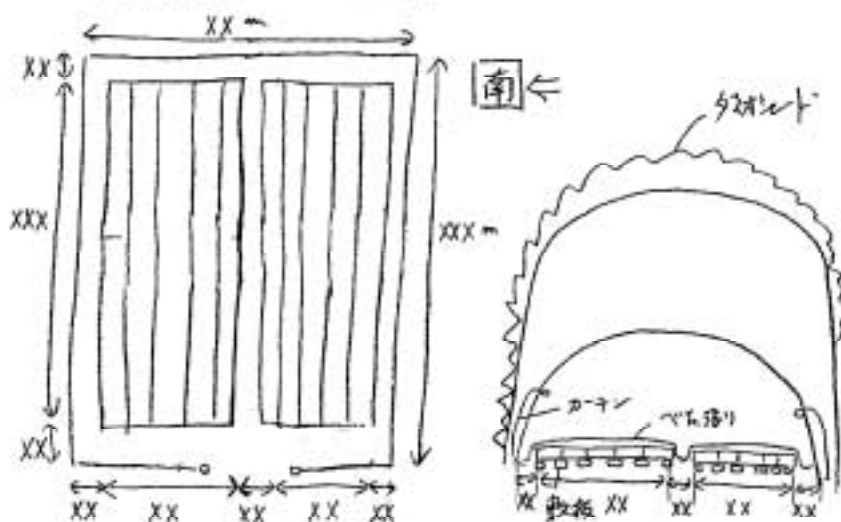
青シートの上に、
ゴザに広げ、乾いたら袋に戻す
青シートだけでは吸水性が悪い

(3) ハウス

① 床準備

遮光 → ダイアジノン散布 → 均平 → 敷板 → カーテン
(ダイオシェード) (クラ)

② 箱の配置 xxx 枚



(4) 播種

① 目標

$$\text{xxx g/箱} \times \text{xx 箱/xx a} = \text{xxxx g/xx a}$$

歩留り

$$\text{xxxx g/a} \div \text{xxx g/千粒} \times = \text{xxx 本/a}^2$$

② 設定

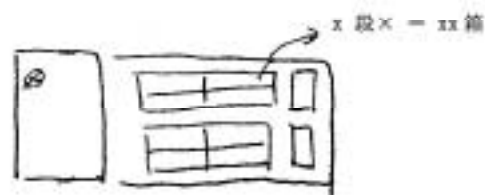
種粒 x袋 (xx k) : xx 箱 → xx 分 (xxx 箱/時)

覆土 x袋 (xx l) : xx 箱 → x 分 (xxx 箱/時)

- 種粒は十分乾燥
- かん水は、水のぼた落ちしない程度
- 覆土厚は x mm 程度

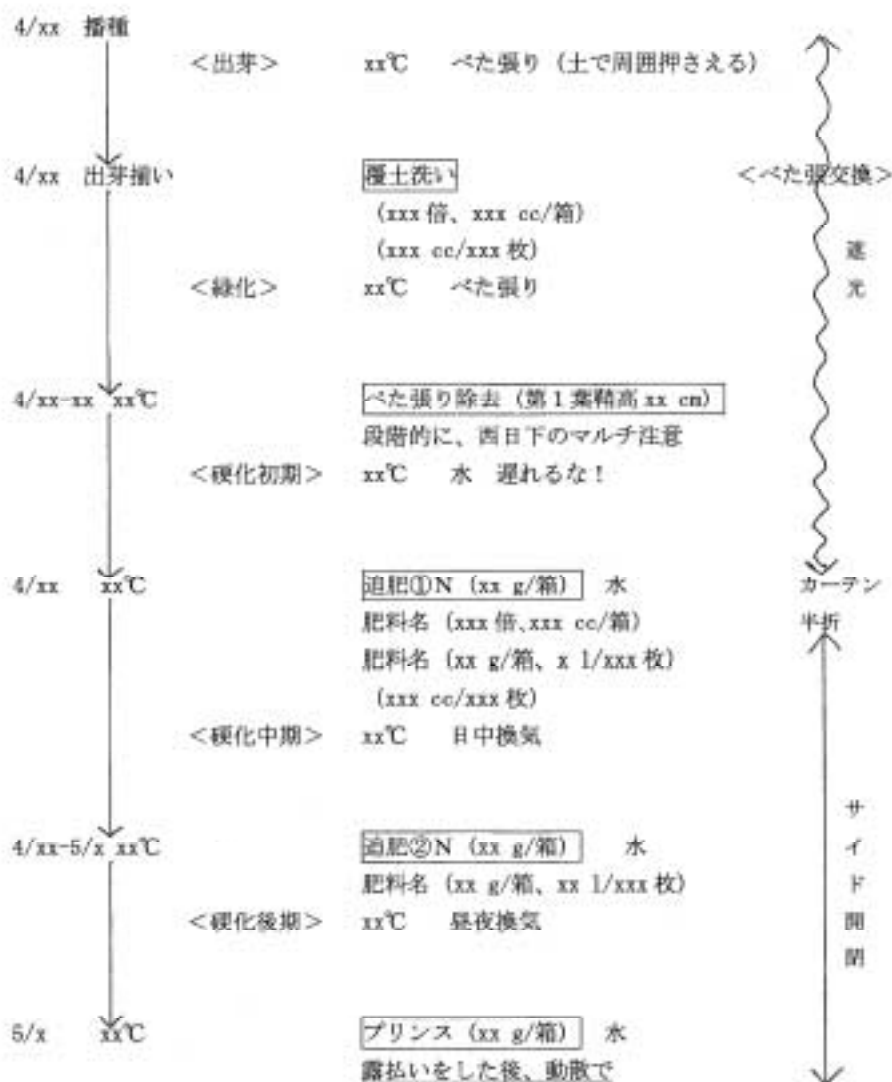
③ 箱並べ

- 軽トラの箱積み



- タカ～夜間に並べる

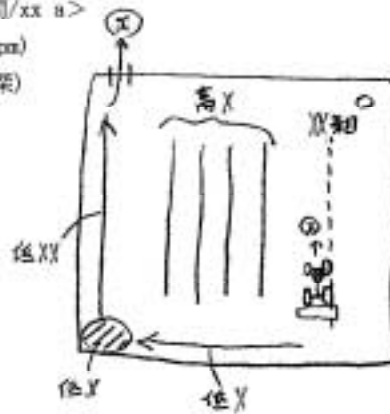
(5) 育苗管理



- 開口は後半まで開けない (生育ムラ)
- かん水は方向を変えて往復 (生育ムラ)

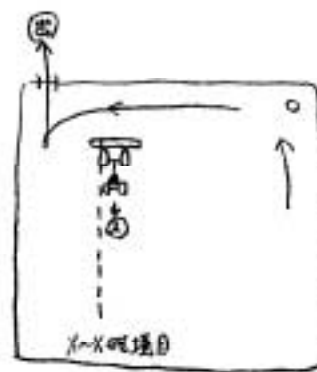
本田準備

- (1) 耕起 <xx 時間/xx 畝>
 高1- xxxx (xxxx rpm)
 耕深目盛 xx (xx cm 深)
 隣接耕法 xx xx 行程



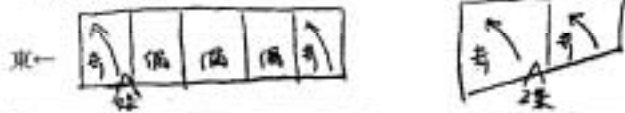
- (2) 基肥
 動散 (肥料: 道路側は軽トラ積んで、水路側は配置)
- (3) 水上げ
 排水口閉じ (板+肥料袋)

- (4) 代かき <xx 時間/xx 畝>
 高1- xxxx (xxxx rpm)
 耕深目盛 xx-xx (できるだけ深く)
 一畦おき耕法 xx 行程
 水少な目!



⑤、⑥は土が水になじみにくいので、十分に xxxx してから!

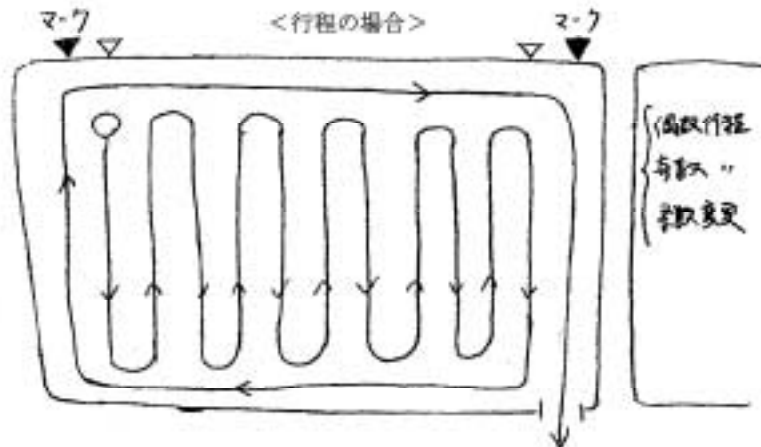
<おばさんの水田>



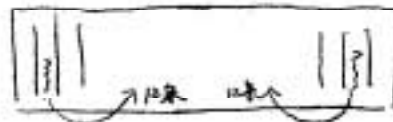
田植

< XXXXXX のセッティング >

- | | |
|---------|-------------------------------|
| ① 使用箱数 | XX 箱/XX a |
| ② 株数 | XX 株/坪 |
| ③ 横送り | XX |
| ④ 1 株本数 | 中より x つ多い (上!) |
| ⑤ 植付深さ | 中 |
| ⑥ 感度 | x |
| ⑦ 速さ | x 速 <XX 時間/XX a> 苗押し板は下げすぎない! |



- 畦畔ポリ (黒 XX cm 巾) クマ畦畔 全て
ヨコ畦畔 全て
- 作溝 (x 条刈 クローラをさける)



- 収穫・調整・貯蔵

- (1) 収穫 <xx時間/xx a>

- コンバインマニュアルに従うこと

- (2) 乾燥

- ① 張込限界 xx a

- ② 張込間は送風循環

- ③ 水分計チェック

- ④ ウマカート

- ⑤ 最終回は初貯蔵

- (3) 初すり

- ① 吊りタンクに十分貯めてから選別板へ

- ② 初扱は蔵南へ

- (4) グレーダー

- ① 幅目：x L

- ② 流量：xx 俵/時まで

- (5) 貯蔵

- ① 乾燥機の定期的送風循環：x~x月毎、x時間

- ② xx坪冷蔵庫の除湿：上部に湿気とりをxコ配置

6. 収穫・乾燥調査 (年)

水田 NO.	月日	天気	収量(割袋)	初期水分玄米 (割)	仕上がり水分 玄米	乾燥温度	時間	備考
			袋	%	%	℃	hr	

7. 収量実績 (年)

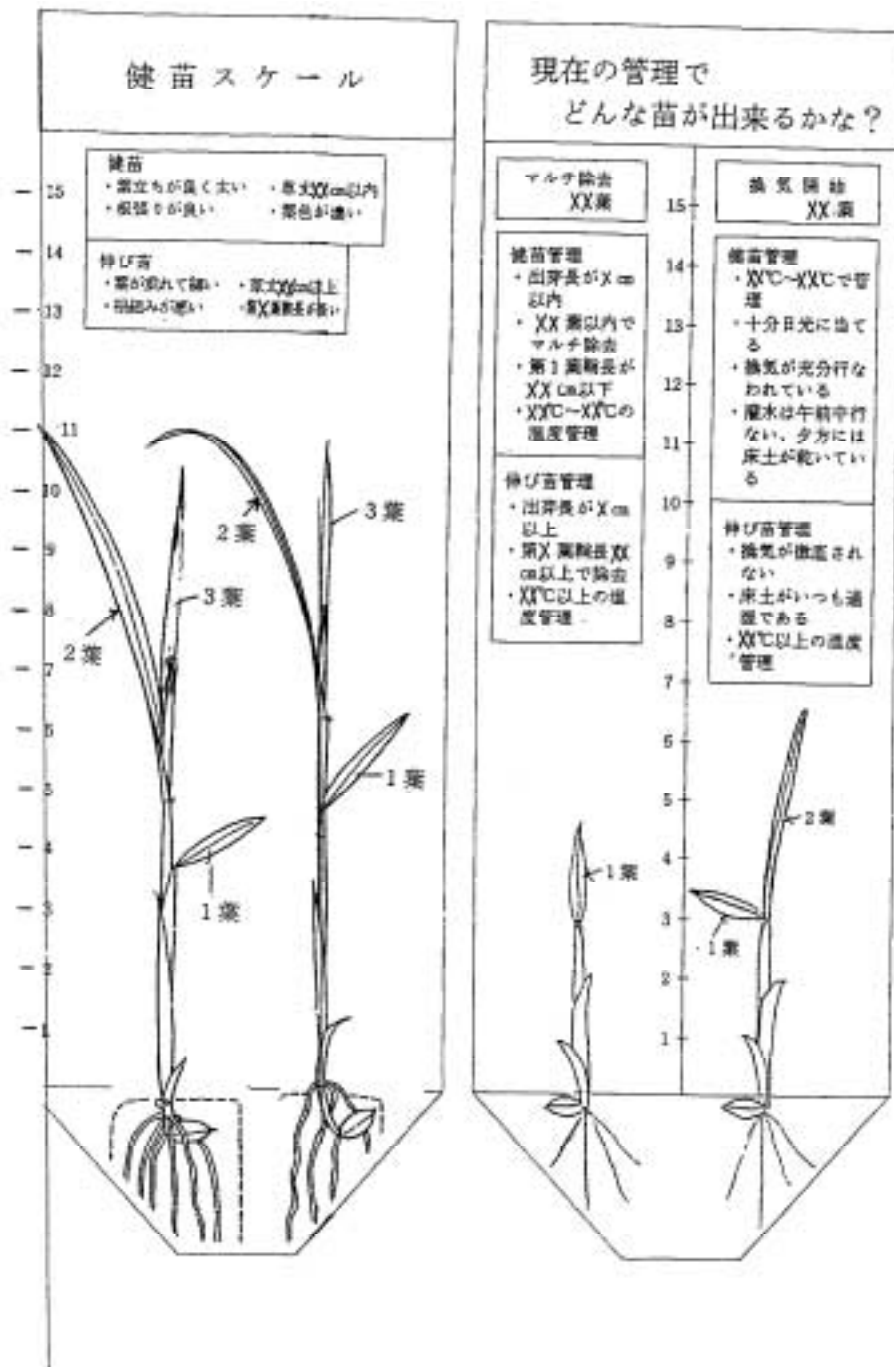
NO.	収穫粗袋数	作付面積	10a当り粗袋数	備考
1	袋	a	袋/10a	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
計				

実収

収量

上白歩留り

食味値

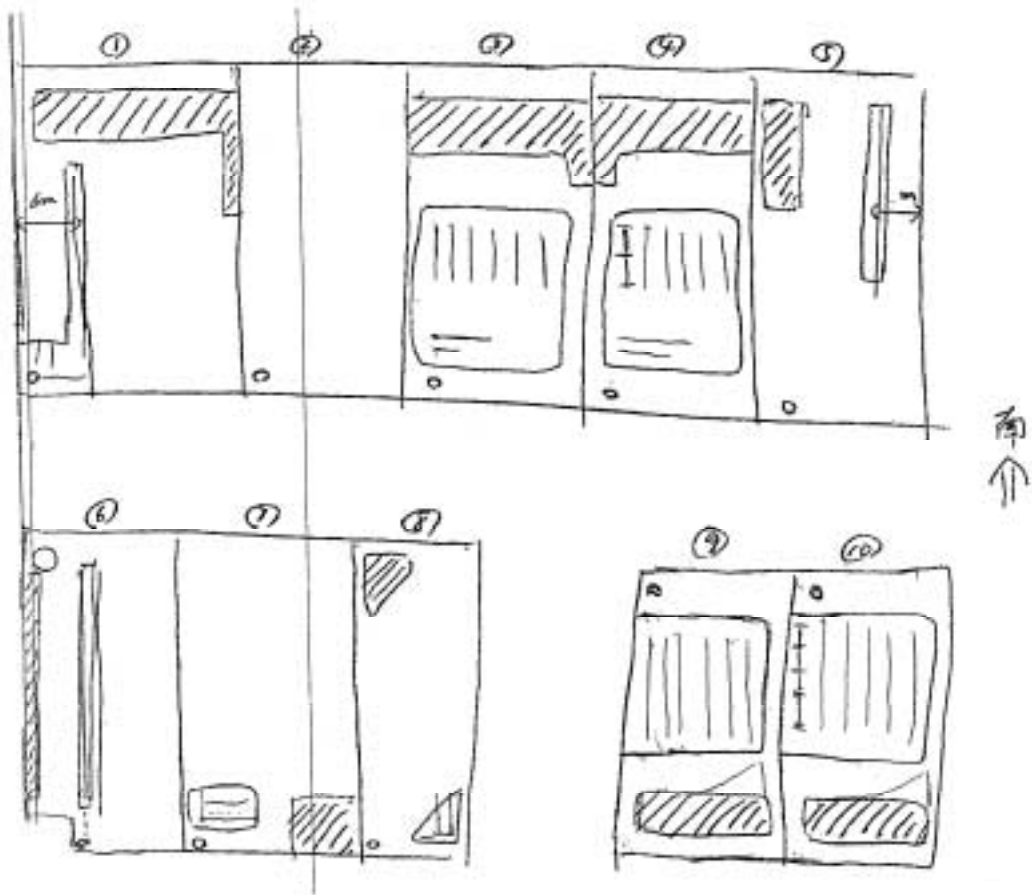


8. メモ (xxxx年)

B/x (苗の状態の記述)

B/xx 田面均平調査

▨ 低, □ 高



B/x (稲の状態に関する記述)

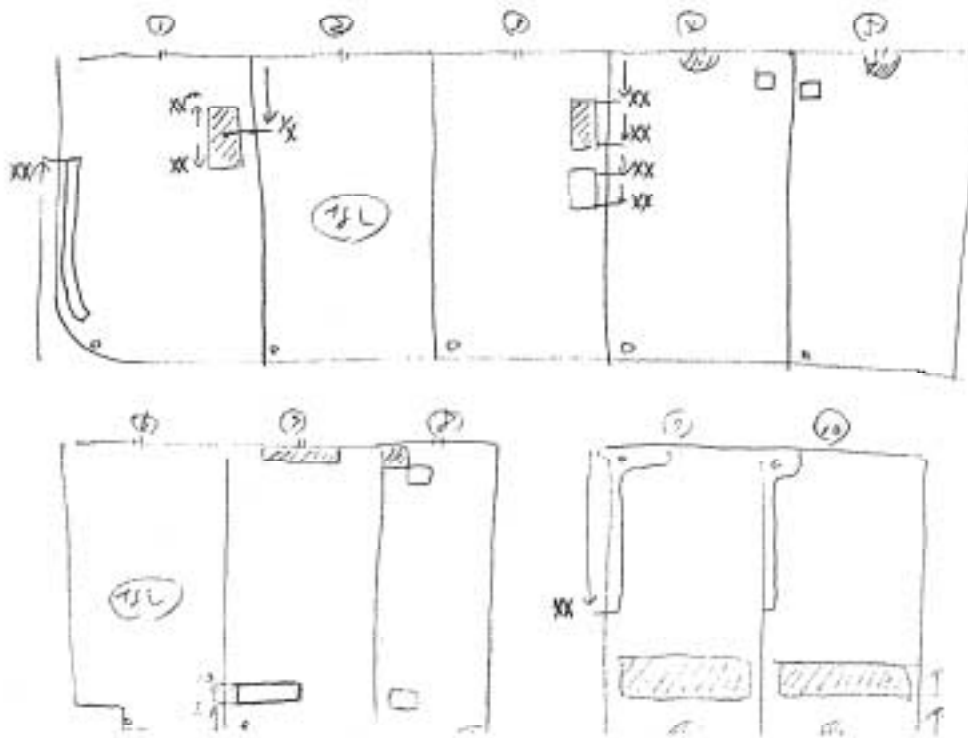
B. メモ

B/x-x (苗の状態に関する記述)

B/xx (除草剤に関する記述)

B/xx 田面均平調査

田面均平調査



4. 農業生産現場の写真

1. 岐阜県大野郡久々野町におけるトマト栽培の収穫時期の様子



筆者撮影

2. 世羅菜園でのトマト栽培



出展：(株)岩崎電気ホームページ (URL http://www.iwasaki.co.jp/info_lib/eoe/32.html)

3. 世羅菜園でのトマト栽培



出展：(株)岩崎電気ホームページ (URL http://www.iwasaki.co.jp/info_lib/eoe/32.html)

4. (有)アトップでの葱栽培のための農業用地（砂地であることに注目）



筆者撮影

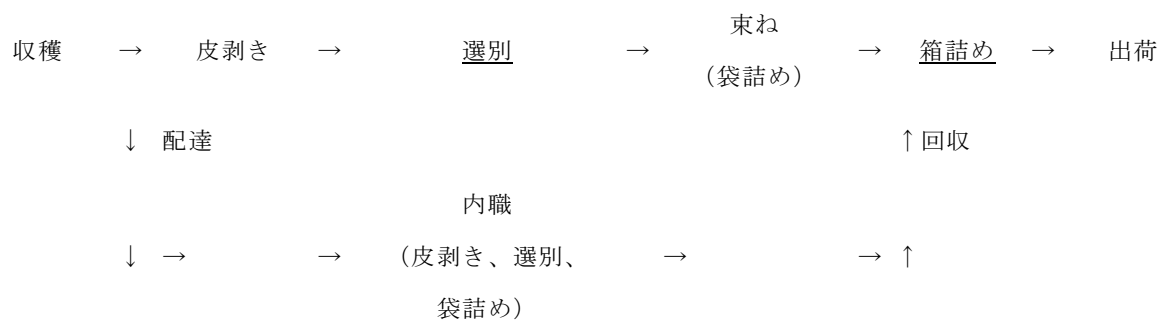
5. 有限会社アトップにおける葱栽培作業手順

栽培の手順

葱を栽培していく行程は以下の通りである。
露地での栽培は、育苗して定植する方法である。



商品になるまで



(出所：有限会社アトップ ホームページ URL <http://www.jade.dti.ne.jp/~atop/hatake.htm>)

6. ヒアリング質問項目

事例1から事例7に共通するヒアリング調査質問項目は以下の通りである。

1. 事業展開の方法について
2. 作業の実態——どのような作業を行っているのか
3. 農業従事者としての意識——事業に関することや地域に関すること、職業的プライド、責任感など
4. 自らの職業の将来について（農業後継者問題を含む）
5. 家族以外の労働力の活用について
6. その他

労働政策研究報告書 No. 26

農業と雇用

—活力ある労働力の確保に向けて—

定価：945円（本体900円）

発行年月日 2005年3月31日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

（編集） 研究調整部研究調整課 TEL 03-5991-5102

（販売） 広報部成果普及課 TEL 03-5903-6263

FAX 03-5903-6115

印刷・製本 株式会社相模プリント

©2005 ISBN 4-538-88026-4 C3336

*労働政策研究報告書全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)



The Japan Institute for Labour Policy and Training